

成田歴史玉手箱

●69回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

とあやまざくら 東小学校の“遠山桜”

消えた地名を冠した学校のシンボル



東小学校遊び場マップに大きく書かれた遠山桜(平成12年度制作)



左：第1回のお花見給食(昭和63年)
上：昨年のお花見給食(平成18年)

「ことしは暖冬の影響で桜の開花が例年より早そうですね。4月の恒例行事までに花が散っていなければよいのですが」と、少し心配そうに語るのは東小学校教頭の秋葉佳子先生。花の行方が気掛かりな理由は、新1年生を囲んだ全校児童の記念撮影と昭和63年から始まったお花見給食が、“遠山桜”の下で行われるからです。

遠山桜とは、東小学校にある約40本のソメイヨシノの中でも最も大きな桜の木に付けられた愛称。昭和29年ごろ、数本の桜と共に、校庭と畑との境木として植えられました。その後校庭の拡張時にほかの境木は切られてしまいましたが、この木だけは生き残り、現在も校庭のほぼ中央にどっしりと根を下ろしています。幹周り約3m、子どもの背丈ほどの高さから5本の幹に分かれた桜は、春になると美しい花を咲かせ、かつて三里塚御料牧場内にあった名木「傘桜」を偲ばせる見事な桜となり、学校のシンボリック的存在として大切にされています。

遠山桜の名付け親は、昭和59年4月に教頭として赴任してきた久保木良先生でした。“遠山”の地名は、平安時代や鎌倉時代の記録に遠山方の名前が出てきます。また、東小学校は遠山村の東にあったことから、昭和25年に遠山村立東小学校として開校し、昭和29年の町村合併によ

る成田市誕生により遠山東小学校、そして昭和34年に現在の名称である東小学校と改称。校名から長く歴史のある「遠山」という名前が消えてしまったので、その名を永く伝えようと“遠山桜”と命名しました。

久保木先生はこの桜をもっと多くの人に知ってもらおうと、桜にまつわるさまざまな話題を盛り込んだ「THE CHERRY TOHYAMA NEWS」(遠山桜ニュース)を毎日発行。これをきっかけに児童や保護者らの関心も高まり、学校と地域の皆さんによる「昭和62年度入学おめでとうサクラ展」の開催へと発展しました。廊下には県内の桜のパネルや桜に関するお菓子・校章・包装紙などの品々が展示されたり、来客を桜茶や桜饅頭で接待したりと、まさに桜づくしの展示会でした。

成田国際空港建設で多くの住民が学区外へ移転し、現在37人の市内最小児童数の学校となった今でも、遠山桜に対する愛着は変わることなく、昇降口に飾られた卒業記念刺繍作品や遊び場マップ、季節の掲示板に描かれています。



東小学校のシンボル“遠山桜”(東小学校所蔵)

編集後記

今月1日から、本紙8・9ページで紹介した市立図書館の新サービスが始まりました。早速図書館へ行ってみると、大変込み合っていました。貸し出しは自動貸出機によってスムーズに。係員の丁寧な説明もあり、自分でやってみると簡単に手続きができました。4月からはインターネットを利用したサービスも開始しますので、日中仕事などで図書館に行けない人には特に朗報です。市立図書館の蔵書数は県内有数で、毎月の新着本は約4,000冊。小説・雑誌から専門書までさまざまな図書が購入されています。本が好きなら、この中にきっと読みたい本があるはず。この機会にもっと図書館を活用してみませんか。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。